

第4回鶴岡市地域福祉計画及び鶴岡市地域福祉活動計画策定委員会 (会議概要)

- 日 時 令和8年3月16日(月)午後1時30分から午後3時15分
- 会 場 鶴岡市別棟2号館第21、22、23号会議室
- 出席委員 阿部淳士委員、伊藤しおり委員、岩崎幸次郎委員、
遠藤貴恵委員、加藤眞由美委員、鎌田博子委員、
佐藤公力委員、菅原健史委員、成田勇委員、増田康平委員
- 欠席委員 五十嵐廣明委員、小関久恵委員、山本久喜委員
- アドバイザー
特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 理事長 宮城孝
特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 理事 大石剛史
- 事務局(鶴岡市)
健康福祉部長(兼)地域包括ケア推進監 菅原青、
健康福祉部次長(兼)子育て推進課長 成沢真紀、
健康福祉部参事(兼)長寿介護課長 加藤早苗、
地域包括ケア推進課長 佐藤清一、健康課長 五十嵐亜希、
福祉課長 加藤恵里、
子育て推進課主幹(兼)こども家庭センター所長 石井美喜、
地域包括ケア推進課長補佐 佐藤正、同課地域包括ケア推進専門員 上野和範、
同課主任 星川芽舞、同課主事 村上聡
- 事務局(鶴岡市社会福祉協議会)
会長 阿部真一、常務理事(兼)事務局長 佐藤豊継、
事務局次長(兼)統括福祉センター長 渡邊健、
地域福祉課長 今野良一、生活支援課長 佐藤律子、
地域福祉課主幹 奥山和行、生活支援課主査 佐藤雅希子
地域福祉課おだがいさま推進係係長 笹原陽子、同係長 荒木裕幸、
同主事 菅原麻耶、同課おだがいさま企画係主事 兼子萌衣、
同課おだがいさま推進係主事 内山友梨香
- 傍聴者 1人
- 公開・非公開の別 公開
- 会議概要

1 開 会

小関委員長が欠席のため、議事進行を阿部副委員長に委ねることについて確認したところ、出席委員全員の賛成により、阿部副委員長が議事を進行することとなった。

2 あいさつ

阿部副委員長より挨拶。

3 説明及び協議

(1) パブリックコメントについて

- ・事務局（市）より、当日配布資料1に基づいて説明。

（各委員より発言）

○委員

パブリックコメントの外国人に関するご意見について、ご家族や身内に外国人がいる方からのご意見か。

→事務局（市）

匿名でのご意見のため不明である。

→委員

我々の考えが及ばないところで生きづらさを感じている方もいらっしゃるかもしれないということを改めて認識した。

(2) 地域福祉計画（案）及び地域福祉活動計画（案）について

- ・事務局（市）より、事前配布資料1・つるおか地域福祉プラン2025（案）に基づき、前回委員会で示した計画（案）からの変更点について説明。
- ・事務局（社協）より、事前配布資料2・おだがいさまのまちづくり計画2025（案）に基づき、前回委員会で示した計画（案）からの変更点について説明。

（各委員より発言）

○委員

以前、支援者を支援する仕組みが必要ではないかと発言したが、それをどのように計画に盛り込んだら良いかと考えていた。おだがいさまのまちづくり計画2025の基本理念において、支援する人と支援される人という枠組みを越えて「相互に連携し合える」「学び合う」という内容が加わったことで、内容に深みが出たと感じる。

○委員

相談先がわからないケースが多い中、「福祉総合相談窓口」の設置検討については大変ありがたく思う。ただ、この名称では「どんな相談でも受け付ける」という趣旨が伝わりづらい。座間市では「断らない相談支援」という名前で相談窓口を開設している。例えば「かならずつなげる相談窓口」など、市民に分かりやすいネーミングをご検討いただきたい。

○委員

パブリックコメントの中に「市民参画の内容が薄いのではないか」というご意見があったが、市民が参画できるような機会は検討しているか。

→事務局（市）

つるおか地域福祉プラン 2025 は、おだがいさまのまちづくり計画 2025 や 21 学区・地区社協の計画、市庁内の各計画等と相互に連携しながら推進されるものである。各計画における事業や進捗管理の中で、市民の方が参画できるような機会があればご参加いただき、地域の方々が主体となり進めていきたい。今後設置予定の地域福祉推進委員会でも同様である。

○委員

地域福祉推進委員会の人選については、今回のように公募をするのか。

→事務局（市）

こちらからお声がけすることもあるかと思うが、公募も含めて検討していく。

○委員

計画の進行管理についてだが、当事者がどう感じるかが重要であるとする。QR コードでのアンケートなど、当事者の意見が簡単に集まる仕組みを取り入れることをご検討いただきたい。

○委員

市のパブリックコメントについて、募集期間が設けられることで今後の発言の機会がなくなるように感じる。また、各計画策定は年度末に集中しがちであるため、意見を出そうにも計画を読む時間がない。そのため、いつでも感じたことをポストできる形式にすれば良いと思う。気軽にアンケートを出したい人は一定数いるはずである。

○委員

よくできた計画だと思う。つるおか地域福祉プラン 2025 の 1 ページの地域共生社会について、市民が「我が事」として感じられるためには適切な情報提供が必要であり、進捗管理の中で、都度状況に合わせた変更を行っていければよい。また、6、7 ページの人口推移を見ると令和 32 年（25 年後）には 65 歳以上の人口が全体の半数近くになる見込みであり、果たして行政サービスが成り立つのか心配である。25 年後を一つの目安としてこれからの 5 年間を考えてはどうか。福祉は必要としている人にとっては興味深い、必要としていない人にとってはそうではない分野である。若い人たちが福祉への興味を持つかが重要である。

○委員

地域で取り組むことについて、具体的にどういう形で進めるべきかを感じる。自治会や町内会で福祉についてどう向き合っていくか、展開していくか、の支援体制がもっと具体的であればイメージがはっきりする。誰が進めるかをもう少し明確にしてほしい。

○委員

地域では新しく何かを始めるためのやる気はあるものの、方法が思いつかず止まってしまい、結局いつも通りのやり方に収束してしまうことが多い。将来を見据え今のうちにこれをやろう、と地域に示すことは効果的であると思う。また、県で実施した外国人についての調査に携わる機会があったが、鶴岡市は外国人に関する取組みが進んでおり、出羽庄内国際村の存在が大きいと感じた。鶴岡市に居住している若い外国人の方が増えている。「やさしい日本語」でコミュニケーションを取り、手を携えていければ、支援する側としても大きな力になっていただけたと思う。

○委員

最近、地区の総会があり高齢者等に向けた除雪ボランティアの話になった。気軽に頼める相手がいない方のために除雪ボランティアを組織化したい、との提案があった。こういった事例を公開していけば、他の町内会や各団体に取組みが広まるのではないかと思う。また、手法に関してすでに取り組んでいる団体に指導を仰ぐことのできるようにすることも重要である。見える化するだけでかなり広がるように感じる。

4 意見交換

(計画策定への関わりを振り返り、全体を通じた感想)

○委員

公募で委員となったが、次回は公募委員がもっと増えていることを願う。この計画は存在すら知らない市民が多いはずである。策定委員として自分の周りからコツコツと広めていき、我が事として関わっていると感じてもらうよう動いていきたい。今後の計画の進め方は良い部分を残しつつ、改善すべきところは修正しながら取り組んでいただきたい。

○委員

精神疾患に関することは偏見もあり、意見を言いづらいため、代表して意見を述べさせていただいた。精神疾患に関する施策が実現できるよう、今後も計画に関わらせていただきたい。

○委員

医療・介護の現場は人材不足や高齢化等、厳しい環境に置かれている。地域の方々にこの現状を知っていただき、計画の実現に向けた力になっていただくことが重要であると感じる。

○委員

計画策定に参加した理由は、自分自身が子育て、介護、身体障害者、外国人との関わりなどを鶴岡市で経験し、一般人の代表として何か役に立てればという思いで公募した。回を重ねるにつれて、内容が改善される場所を見ることができ勉強になった。計画策定以外でも専門家の方々の意見を聞く機会があればよいと思う。

○委員

奥が深い議論になり、勉強すべきことは多いと感じた。地域のつながりは年々希薄になっており、隣組すらわからず、聞きたいこともプライバシーの問題で叶わない。このままではいけないという思いで参加し、よい計画が策定できたと思う。21学区・地区社協でも計画を作っているところだが、メンバーに各分野の若者を入れるべきであると強く感じる。自分事であると捉えていただき、次の世代を作っていくことが重要である。

○委員

自分の持つものを他に与え、自分の持たないものを他から学び、協働して進めていくことが重要である。それぞれの専門分野はあるが、すべてのことを一人で行うことは不可能である。発信していくことが必要であり、市民と協力してこの計画が達成できるよう、今後も携わっていききたい。

○委員

障害者グループホームでは地域連携推進会議の実施が義務化され、地域との関係づくりを推進している。しかし、地域にどう入れればいいかわからないという職員からの声がよく聞かれる。委員会の中で担い手不足の話がよく出たが、障害のある方は与えられた仕事を黙々とこなすことが得意な方が多く、担い手不足の問題に対しうまくマッチングできる可能性があるように思う。高齢者の方々の負担も軽減でき、地域と融合できれば良い関係を築くことができると感じた。

○委員

区長を経験する中で必要であると感じたのは、福祉部会である。民生委員を孤立させないことと、避難体制整備を行うことは、地域福祉において重要である。地域づくりは福祉の原点であり、持ち直さないと大変になるということを改めて感じた。

○委員

人材不足や人口減少対策には若者、子ども、定住の支援拡充が必要である。制度や支援には隙間がたくさんある。社会福祉法人など民間でその隙間を埋めていきたい。また、行政からも法人へご相談いただきたい。それが新たな支援につながると思う。

○委員

介護の現場での人材不足を日々感じている。計画策定に関わる中で、ケアマネとしてできることを色々と考える機会になった。これからはどう結果を出すかということ地域の方々も含め、皆様とともに考えていきたい。

(計画策定についての総括)

○宮城先生

計画策定に向けた地域座談会には現役世代の方の参加を強く希望し、その方たちの声を計

画に反映するよう努力した。皆様からもあったように、今後もそれは重要な視点であると考えている。旧5町村には総合相談窓口があるが、旧市内にはない。これまではコロナの影響もあり窓口設置には至らなかったが、今回の計画では実現に向けて進めていきたい。心のケアや孤立の問題について、精神疾患が増えている。そのため、地域で不安な気持ちを話すことができる場はこれからもっと必要になるが、日本人が苦手な分野であり、特に鶴岡市の方はまじめで外に出せないタイプが多いため、メンタルヘルスのリテラシーを向上していくべきである。

地域福祉推進委員会に関して、実施している自治体では関心を持つ市民が多くなるため、ぜひ実現したい。人口減少について、パリは若い世代が多く移住しているが、ベースは地方自治である。自分たちの町の在り方を、真剣に考える人が増えなければ町は良くならない。継続的な計画の進行管理に努めていきたい。

○大石先生

人材不足について、福祉も協働が必要である。最近是一般企業も社会貢献に対し熱心に活動しているため、そういったところとの連携も選択肢の一つである。また、様々な人たちが地域福祉について話し合える場が必要である。那須塩原市では2カ月に1度、話し合いの場の開催を9年ほど続けている。普段からの話し合いを積み重ねると、支え合いの雰囲気づくりができる。相談しやすくなり、効率的・効果的な問題解決につながる。そういった雰囲気作りを、今後の推進の中で皆様の力を借りながら検討していきたい。

(計画策定の最終調整について)

○阿部副委員長

本日の委員会を踏まえた最終調整は原案を事務局で取りまとめ、小関委員長にご確認いただき決定するという事によろしいか。

(異議なし)

出席委員全員の賛成により、小関委員長に最終決定を一任することとし、協議を終了する。

4 その他

○意見なし

5 閉 会

○事務局

鶴岡市菅原健康福祉部長、鶴岡市社会福祉協議会阿部会長より策定委員への御礼の挨拶。